

第7回気象予報士CPD運営委員会議事録

日時 令和元年5月16日(木) 12時30分～13時18分

場所 国立オリンピック記念青少年総合センター センター棟2F カフェ フレンズ

出席者

委員長兼認定委員長	藤部 文昭	首都大学東京 地理環境学科特任教授	
委員兼認定委員	川瀬 宏明	気象庁気象研究所応用気象研究部主任研究官	
委員兼認定委員	出世ゆかり	国立研究開発法人防災科学技術研究所水・土砂防災研究 部門主任研究員	
委員	安木 啓	株式会社応用気象エンジニアリング	代表取締役社長
委員	酒井 重典	一般社団法人日本気象予報士会	顧問
委員	大西 晴夫	一般社団法人日本気象予報士会	代表理事会長
副委員長(議長)	平松 信昭	一般社団法人日本気象予報士会	理事副会長
事務局	内山 常雄	一般社団法人日本気象予報士会	常務理事CPD担当幹事

議 事 概 要

1. 開会の挨拶(事務局)

2月に開催された第6回運営委員会で、設立準備委員会創設以来8年の間、気象予報士CPD制度発展にご尽力いただきました田中博委員長が、学内業務多忙のため辞意を表明されました。今回の運営委員会は新体制への引継ぎを主な議題として開かせていただきました。手続き上、委員会の招集は田中前委員長に行っていたいただきましたが、田中前委員長は大学の評議委員会のため出席できず、皆様によりしくお伝えくださいとのことです。

運営委員会の新体制は、気象学会の岩崎理事長からご推薦いただきました藤部文昭様、川瀬宏明様、出世ゆかり様について、ご承認を願います。また、藤部委員には、田中委員長に代わって当面1年間は委員長をお引き受けいただけるものと承知いたしております。

5月19日に開催される日本気象予報士会の理事会で承認後、委嘱状を送付いたします。

2. 気象予報士CPD制度概要(大西会長)

新たな委員が加わったことでもあり、CPD制度の概要を紹介した方がよいと思います。気象予報士は1度資格を取得すると一生涯続く資格で、資格の更新はありません。ただ、予報技術の中身は10年もたつと大きく変わってしまうことから、再講習が必要なことは当たり前です。一方、気象庁では再試験制度に積極的でなく、支援センターは、あってもよいとは考えていても熱心ではありません。そこで、継続的な技能研鑽を行っていることを示すCPD制度が必要になります。

CPD制度を立ち上げるにしても、それを引き受けるところは容易に見つかりませんでした。1万名の気象予報士のうち、日本気象予報士会には3千数百名しか加入していないので、日本気象予報士会が本制度を運営してよいかについては疑問がありました。そこで日本気象予報士会とは独立した外部に運営委員会を置いて運営することで出発し

ました。ところが、その運営委員会に法人格を持たせることは難しく、制度の社会的信用を得ることが難しいという問題がありました。結局、日本気象予報士会が事務を引き受けることで、日本気象予報士会の会長が設置した運営委員会が制度運営をするようになりました。

3. 気象予報士 CPD 制度一般に関する討議

- ・土木学会の CPD 制度は土木学会の外部に置いているのか？

土木学会の CPD 制度は土木学会に所属している会員が対象となっており、内部に置いている。他の CPD 組織でも、資格所有者が全員加盟している団体では、その団体が CPD 制度を運営している

- ・気象予報士の有資格者のうち、気象業務を行っている人数は？

気象業務許可事業者に所属している気象予報士は 500 名未満

- ・協賛企業 2 社はどこか？

安木委員の応用気象エンジニアリングと札幌総合情報センターの 2 社である

- ・日本気象協会が協賛企業に加わらない理由は何か？

日本気象協会所属の気象予報士の数が多く、すべての予報士の分の協賛金の負担が多くなり、金額で折り合いがつかなかった

- ・協賛企業を増やす努力は？

いであ様は以前から運営委員会に出席を頂き、ご助力を頂いたが、協賛企業に加わるまでには至っていない。今後とも協力いただけるように働きかけたい。キャスターネットワーク様は、協賛については、制度がしっかり運営されるようになってから考えるとのこと。ウェザーマップ様は、会社の社員採用方針が、CPD のあるなしを基準としていないため、考え方の異なる制度への協賛は見送るとのことであった。今後とも協力をお願いを続けたい。

これに対して、

現在、採用面では予報士の実力の有無を考慮する余裕はなく、予報士の有資格者を採用するだけでも大変な状況にあるとの意見があった。

- ・認定者の名前をホームページや総会資料に掲載するとの提案が前回の運営委員会で提案があったが、その後の進捗はどうなっているか？

個人情報観点から、該当者の了解を取り付ける必要があり、現在のところ進捗していない。

- ・ポイントが申請基準に達しているのに申請しない理由は何か？

そのような人は少数派だが、自分の力以上の評価を受けたくないといった意見は承知している

4. 「CPD 実施形態区分の見直しについて」

川瀬委員から、論文発表の形態区分については、研究発表に変えた方がよいのではないかと
の提案があった。藤部委員からも同様な意見があり、運営委員会の総意として変更するこ
とに決定した。ただし、ポイント基準は当面変更しない。

5. 事務局から

制度が体をなすためには、少なくとも 100 名の CPD 認定者が必要と考える。当面、それ
を努力目標として活動していく。ただ、現在の気象予報士 CPD 制度は、管理プログラム登
録者は 1,000 名を超えているものの、ポイント登録を行っている利用者は約 350 名、認定
基準を達成できそうなレベルまで登録している会員は 50 名に満たないため、当面認定委
員の先生方に認定作業の集中が発生する可能性は低い。この 5 月には 2 名の認定作業をお
願いしたが、今後もこの程度の作業量は発生することが考えられるので、認定委員の先生
方にはご負担がかかりますがよろしくお願いいたします。

6 運営委員長閉会の辞（藤部委員長）

田中先生ほどのことができるかどうかはわかりませんが、お引き受けした委員長の仕事に
精一杯努力いたしますので、皆様方にはバックアップのほどよろしくお願いいたします。